

第8章 子育て支援施策の現状と子ども・若者の意見収集

1 子育て支援施策の現状

「逗子市子ども・子育て支援事業計画の策定」に伴うアンケート調査結果(未就学児の保護者向け調査)による主な特徴と関連する事業から子育て支援事業について課題と現状を整理しました。

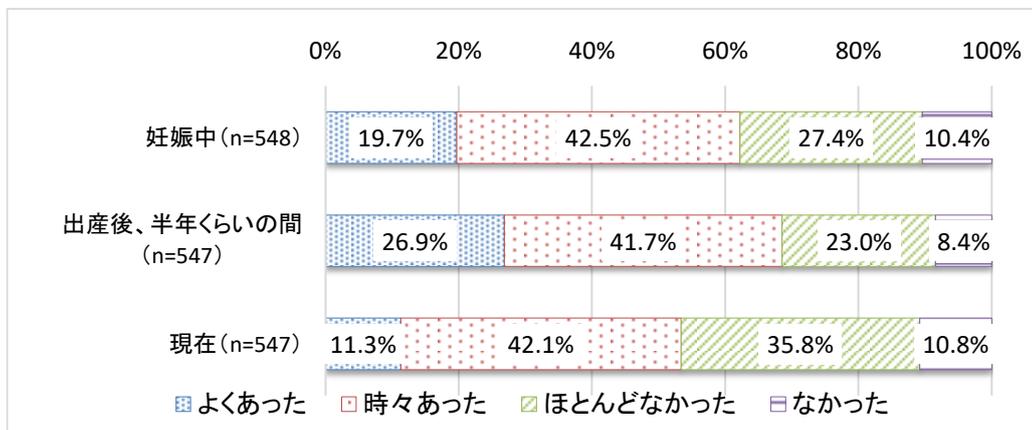
※ 結果の見方に当たっての留意事項

- ・百分率%の計算は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。四捨五入の影響で、%を足し合わせても100%にならない場合があります。
- ・複数回答(2つ以上選択してよい設問)は、%の合計が100%を超える場合があります。

(1) 妊娠期から出産後まで

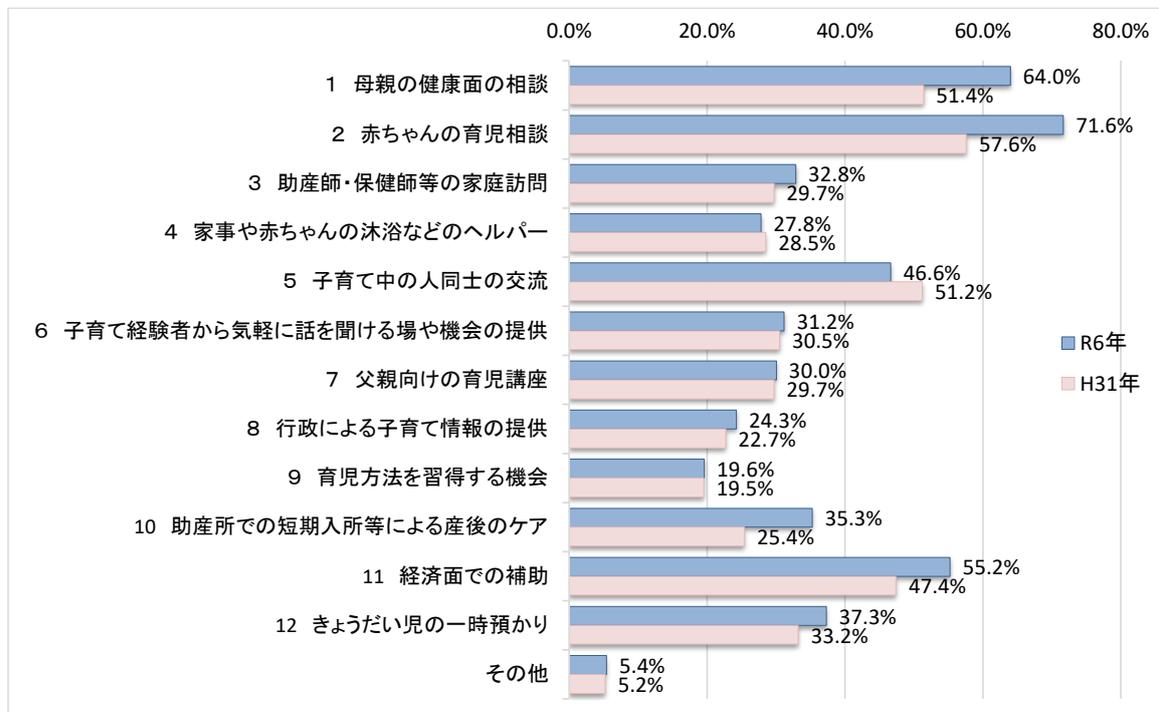
対応する主な子育て支援事業:「妊婦健診事業」「妊産婦・乳児訪問事業」
「妊産婦・乳幼児教室事業」「乳幼児健診事業」
「産後ケア事業」

妊娠中から出産後半年くらいの間は、不安を感じたり自信が持てなくなったりする方が半数を超え、とくに、出産後半年くらいの間では「よくあった」方が26.9%、「時々あった」と合わせると68.6%となっています。



妊娠中・出産後重要なサポートとしては、「赤ちゃんの育児相談」「母親の健康面の相談」「経済面での補助」を上げる方が、それぞれ 71.6%、64.0%、55.2%で、5割を超え、「子育て中の人同士の交流」が 46.6%で続いています。

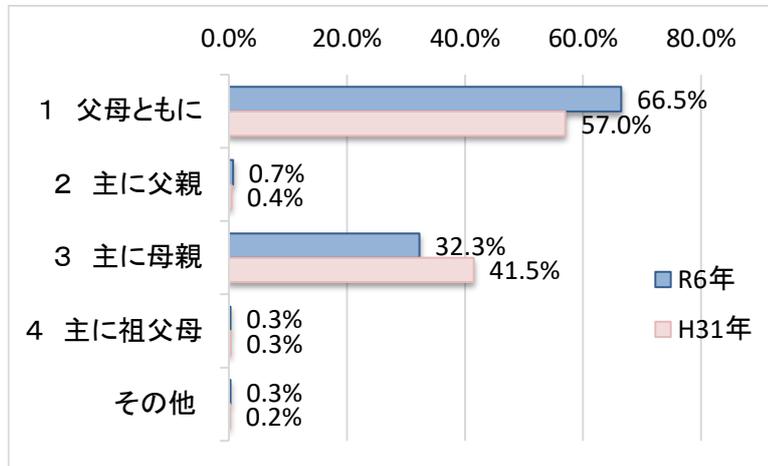
これを平成 31 年と比較すると、「助産所での短期入所等による産後のケア」「母親の健康面の相談」「経済面での補助」「きょうだい児の一時預かり」の需要が増えている一方、「子育て中の人同士の交流」「家事や赤ちゃんの沐浴等のヘルパー」の需要が減っています。



(2) 子育ての環境について

① 主に子育てを行っている方

主に子育てを行っている方について、「父母ともに」が 66.5%で最も多く、「主に母親」が 32.3%と 3 割を超えています。「主に父親」はわずか 0.7%です。父親の積極的な関与が望まれます。これを平成 31 年調査と比較すると、「父母ともに」が若干の増加傾向にあります。

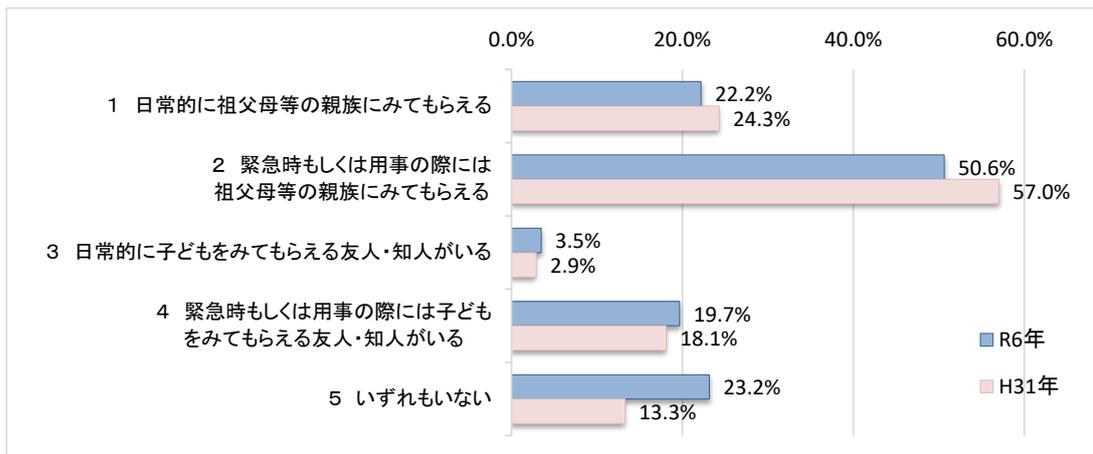


② 緊急時の協力体制

対応する主な子育て支援事業:「ファミリーサポートセンター」

子どもをみてもらえる親族・知人の有無に関して、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」人がいない方が 23.2%と 2 割を超えています。子育てを支える環境の整備が求められています。

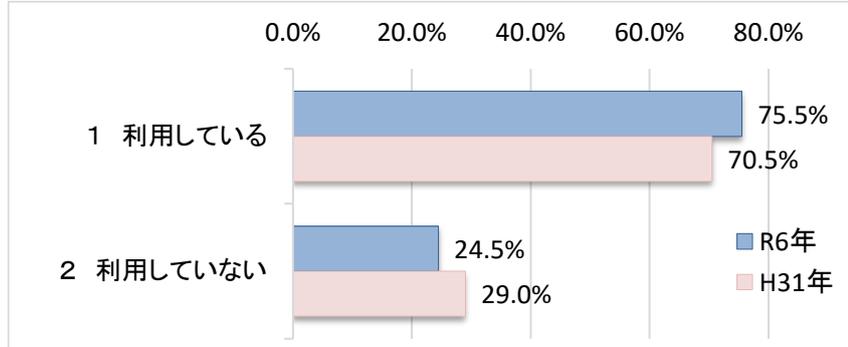
これを平成31年調査と比較すると、いずれもない方の構成比が高くなっています。



③ 平日の定期的な教育・保育事業の利用

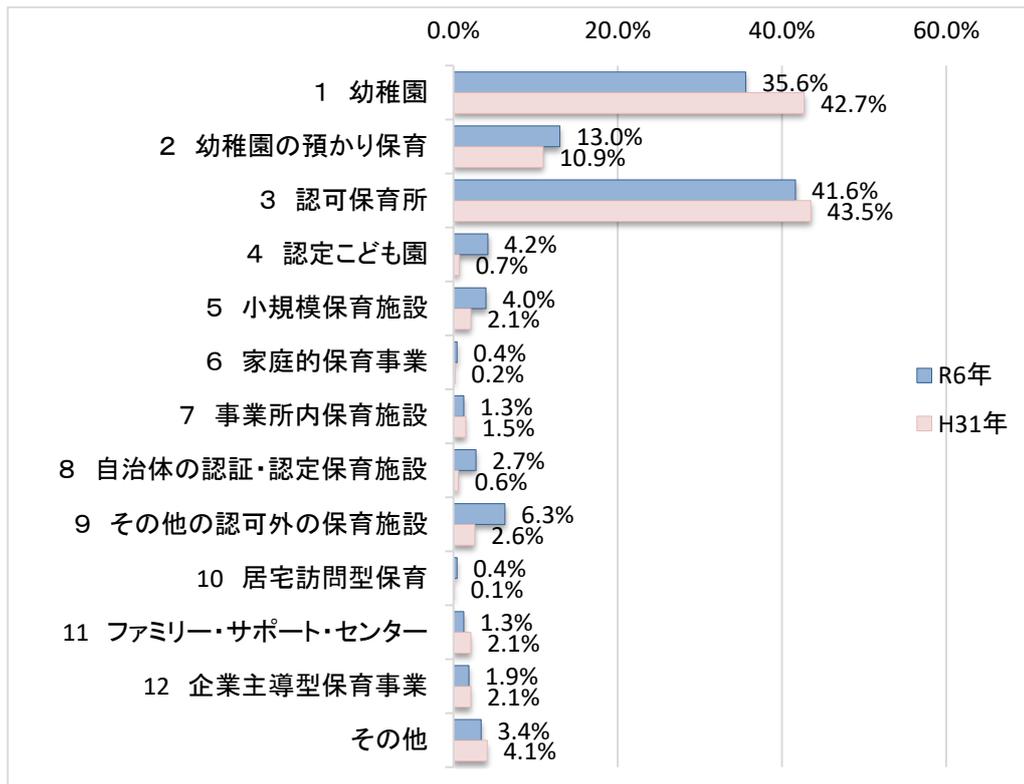
利用状況・利用意向の現状からみて定期的な教育・保育事業利用の有無をみると、「利用している」は75.5%、「利用していない」は24.5%となっています。

これを平成31年調査と比較すると、「利用している」方の構成比が高くなってきています。



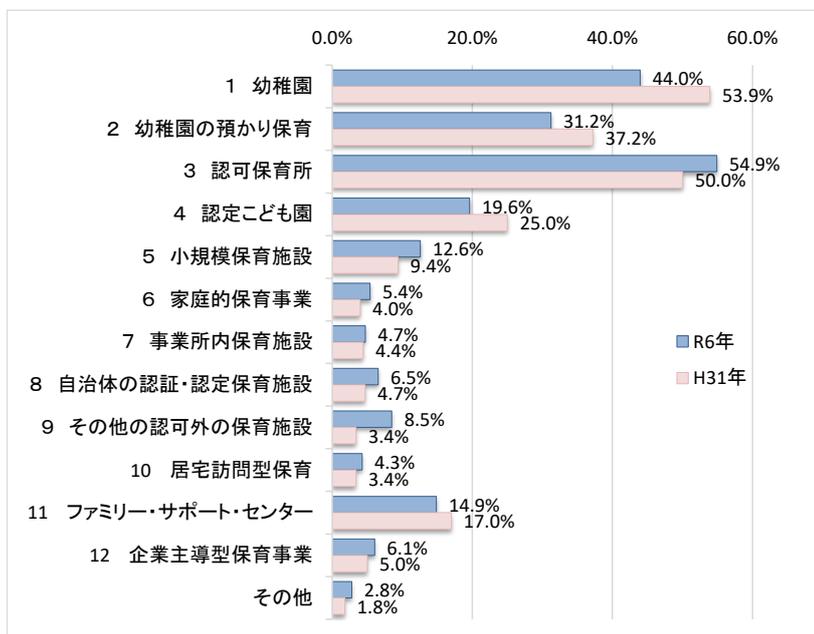
定期的にご利用している具体的事業では、「認可保育所」「幼稚園」が、それぞれ41.6%、35.6%で、多くなっています。そのほか、「幼稚園の預かり保育」が13.0%となっています。

これを平成31年調査と比較すると、「幼稚園」、「認可保育所」の利用が減少傾向にあり、「認定こども園」「自治体の認証・認定保育施設」等、様々な事業の利用が増加傾向にあります。



定期的に利用することを希望する具体的事業では、「認可保育園」が 54.9%で、5割を超え、「幼稚園」44.0%、「幼稚園の預かり保育」が 44.0%、「認定こども園」が 19.6%で続きます。

これを平成 31 年調査と比較すると、「認可保育所」「小規模保育施設」「認可外の保育施設」等の希望が増えています。

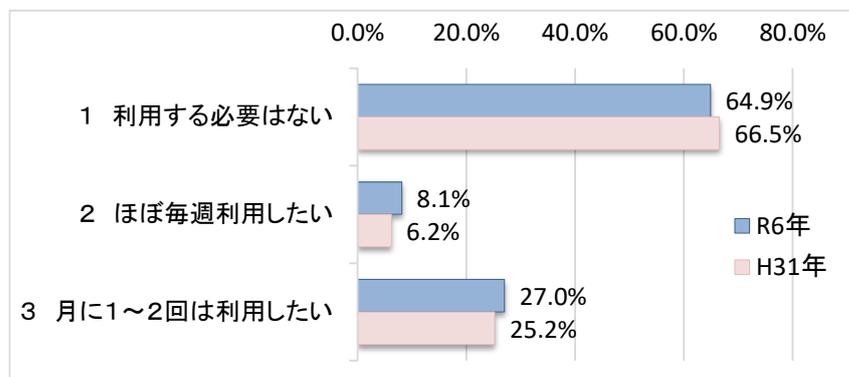


④ 土曜や長期休暇中の定期的な教育・保育事業

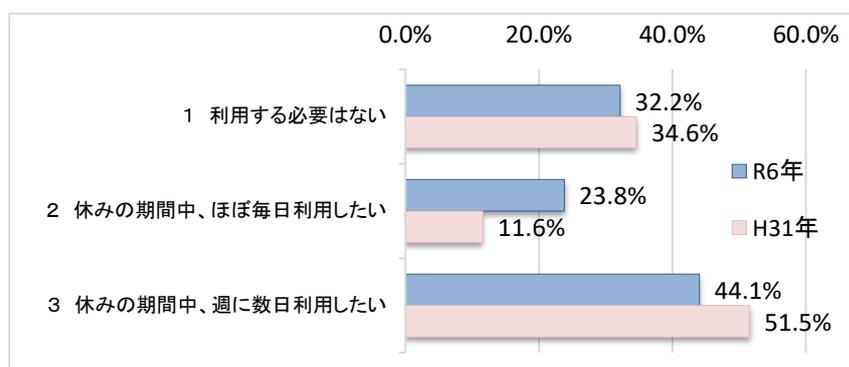
土曜の定期的な教育・保育事業が必要なサービスの利用意向をみると、定期的な教育・保育事業では土曜日の利用は必要ないと考える方が、64.9%で、多い傾向にあります。

長期休暇中に「休みの期間中、週に数日利用したい」との意向を持つ方が 44.1%と 4 割を超えています。

【土曜日】



【長期休暇中】

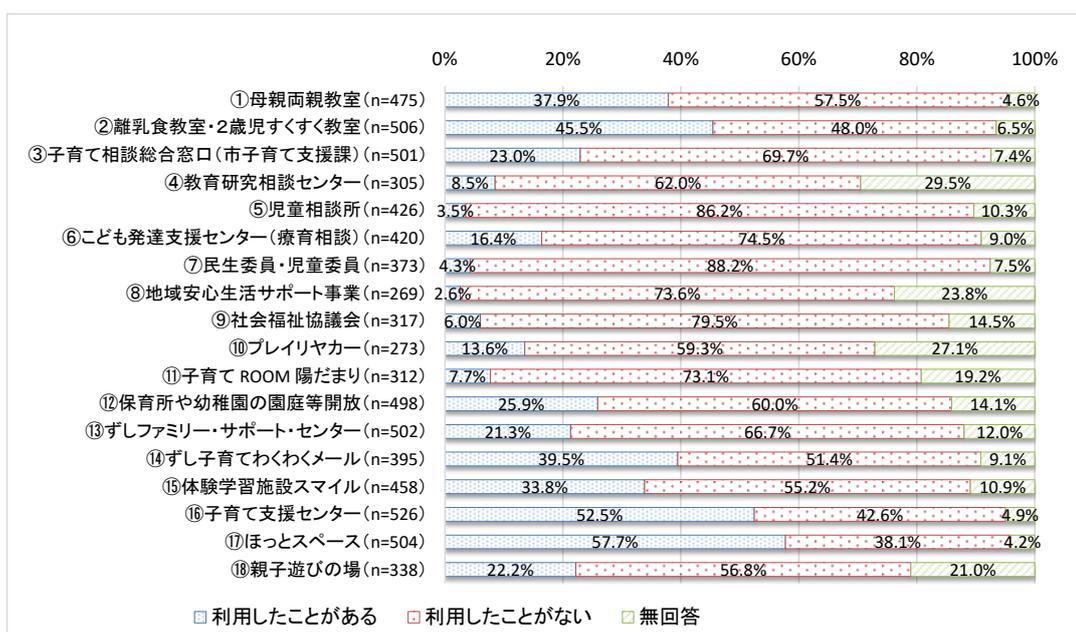


⑤ 希望が多い地域子育て支援拠点事業の利用

認知度が高い事業については「ほっとスペース」「母親両親教室」「子育て支援センター」「離乳食教室・2歳児すくすく教室」等の割合が大きく、利用している事業では「ほっとスペース」「子育て支援センター」「離乳食教室・2歳児すくすく教室」の割合が大きい。

利用したい事業では「教育研究相談センター」「地域安心生活サポート事業」「プレイリヤカー」「親子遊びの場」の割合が大きい。

区 分	事業を知っている (%)	利用したことがある (%)	今後利用したい (%)
①母親両親教室	95.4	37.9	4.6
②離乳食教室・2歳児すくすく教室	93.5	45.5	6.5
③子育て相談総合窓口(市子育て支援課)	92.6	23.0	7.4
④教育研究相談センター	70.5	8.5	29.5
⑤児童相談所	89.7	3.5	10.3
⑥こども発達支援センター(療育相談)	91.0	16.4	9.0
⑦民生委員・児童委員	92.5	4.3	7.5
⑧地域安心生活サポート事業	76.2	2.6	23.8
⑨逗子市社会福祉協議会	85.5	6.0	14.5
⑩プレイリヤカー	72.9	13.6	27.1
⑪子育てROOM陽だまり	80.8	7.7	19.2
⑫保育所や幼稚園の園庭等開放	85.9	25.9	14.1
⑬ずしファミリー・サポート・センター	88.0	21.3	12.0
⑭ずし子育てわくわくメール	90.9	39.5	9.1
⑮体験学習施設「スマイル」	89.1	33.8	10.9
⑯子育て支援センター	95.1	52.5	4.9
⑰ほっとスペース	95.8	57.7	4.2
⑱親子遊びの場	79.0	22.2	21.0



⑥ 病気の際の対応－病児・病後児保育事業の利用ニーズ

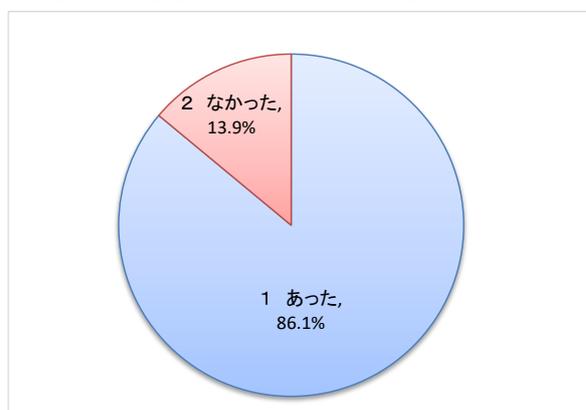
対応する主な事業：ファミリーサポートセンターの病児・病後児預かり

定期的教育・保育事業利用者で子どもが病気の際の対応は、「母親が休んだ」が 79.3%で最も多く、「父親が休んだ」が 49.7%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」がそれぞれ 25.2%で、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が 20.8%で続きます。

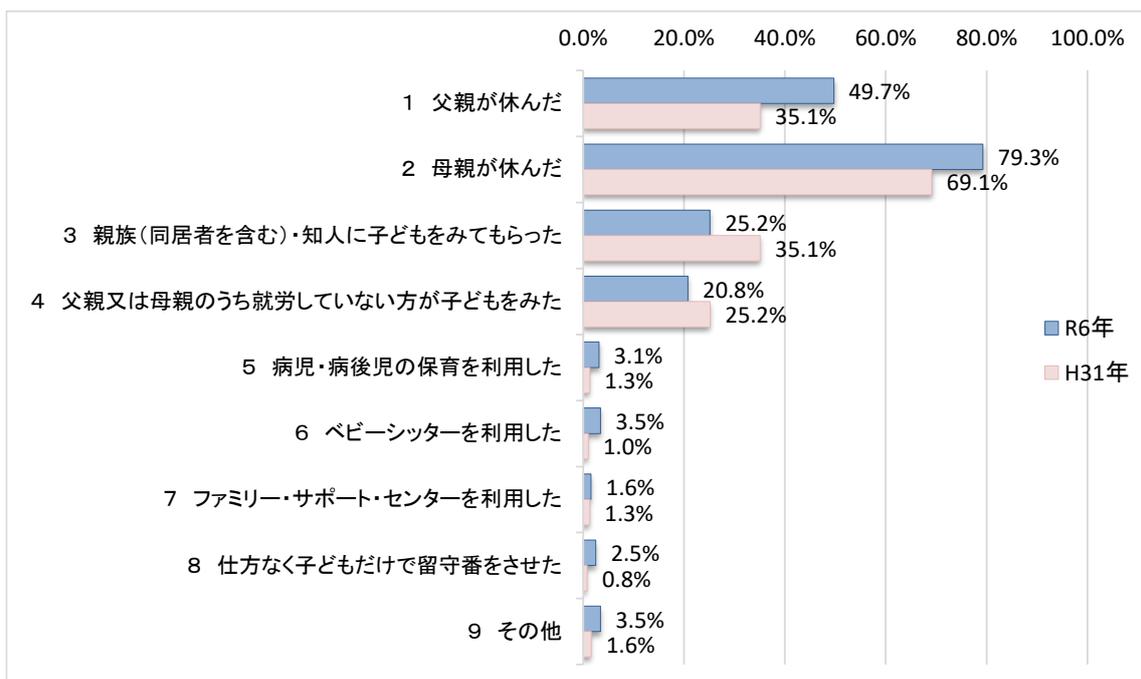
父母が休んだ際に「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」は 56.4%となっています。その際の望ましいと思う事業形態では、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 82.1%で最も多く、「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が 59.3%で続きます。

定期的教育・保育事業利用者で子どもが病気の際の対応で、父母が休んだ以外の対応を行った方のうち、10.5%が「仕事を休んで看することは非常に難しい」と考えて休まなかったという結果でした。理由としては 30.0%の方が「子どもの看護を理由に休みがとれない」「自営業なので休めない」を挙げていました。

【病気やケガで通常の事業が利用出来なかったこと】

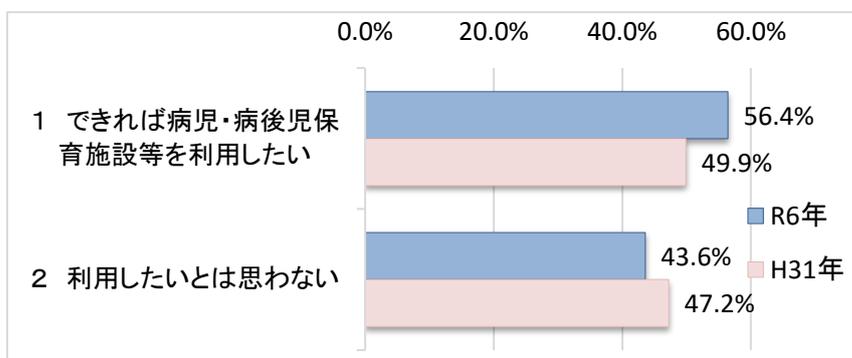


【病気やケガで通常の事業が利用できなかった場合の対処方法】



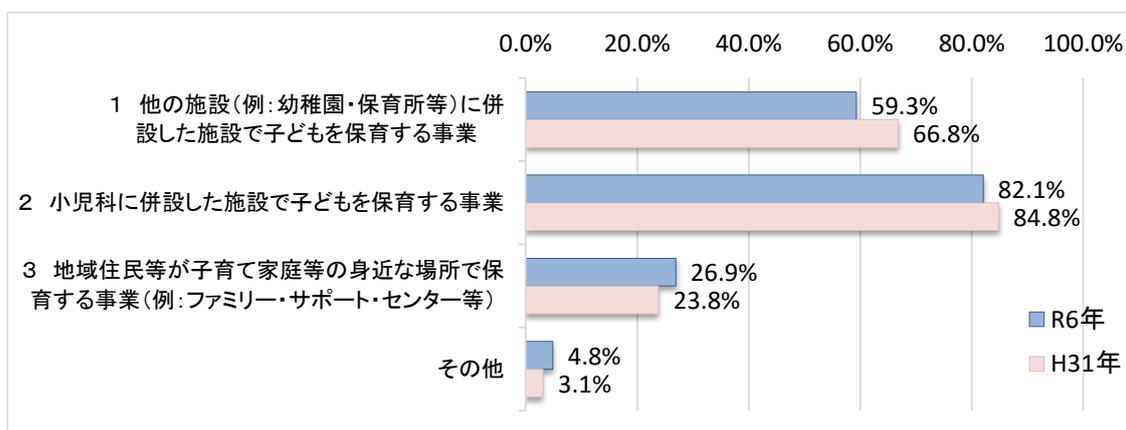
父母が休んだ際に「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」のほうが「利用したいとは思わない」を逆転して多くなりました。

【父母や休んだ際の病児・病後児の保育施設等の利用意向】



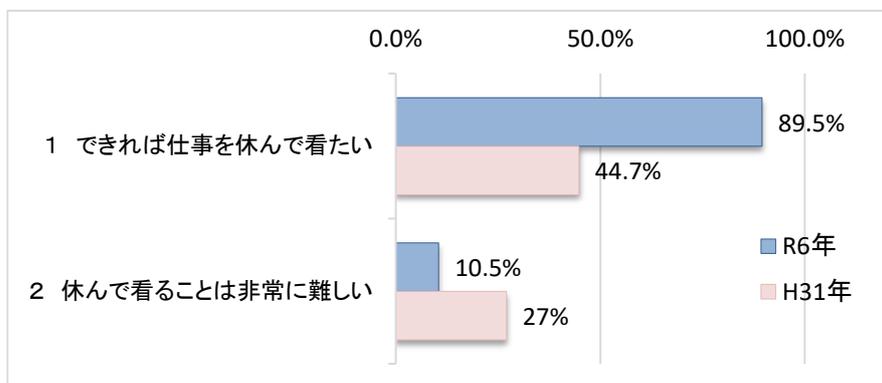
利用する場合の望ましいと思う事業形態では、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」「他の施設に併設した施設で子どもを保育する事業」が増えています。

【利用する場合の望ましいと思う事業形態】

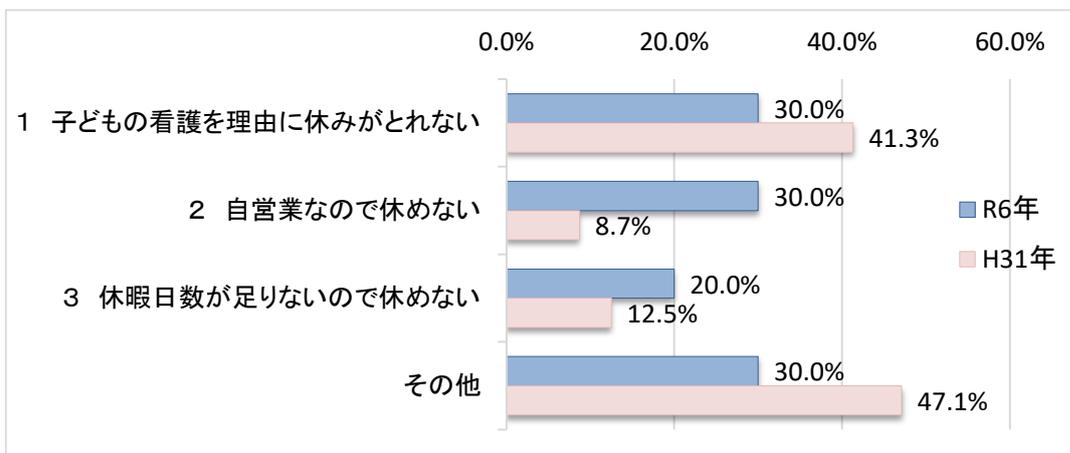


定期的教育・保育事業利用者で子どもが病気の時の対応で、父母が休んだ以外の対処を行った方がそのように対応した理由では、「できれば仕事を休んで看たい」の割合が増え、「休んで看ることは非常に難しい」の割合がやや減少しています。

【父母が休んだ以外の対処を行った方の休暇取得に対する意向】



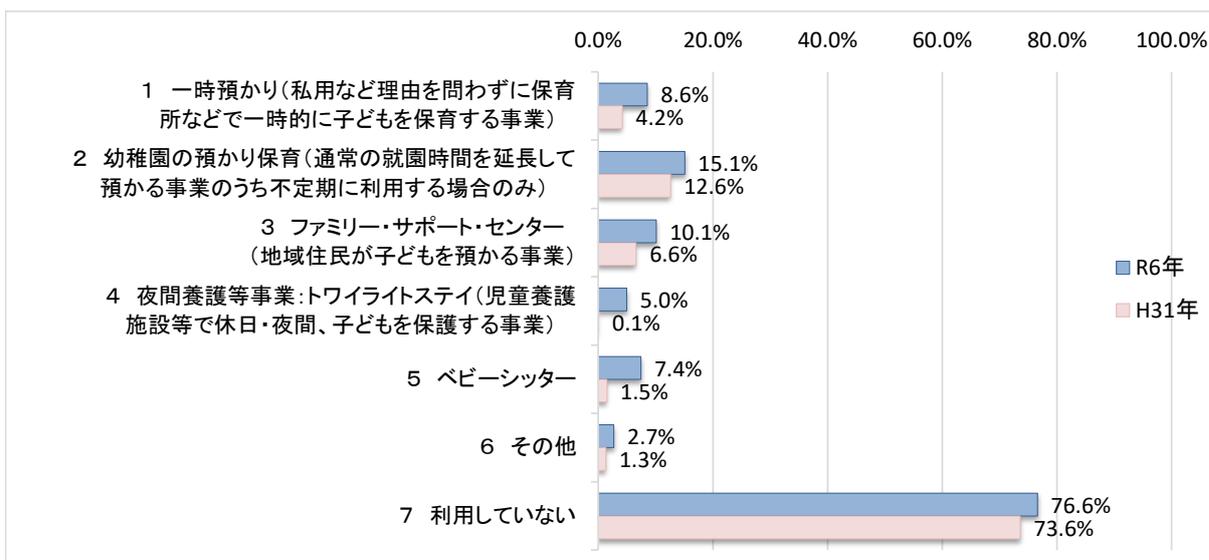
【休んで見ることは非常に難しい理由】



⑦ 不定期で利用している教育・保育事業等の利用ニーズ

私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業では「幼稚園の預かり保育」が15.1%で最も多く、「ファミリー・サポート・センター」「一時預かり」「ベビーシッター」が続きます。

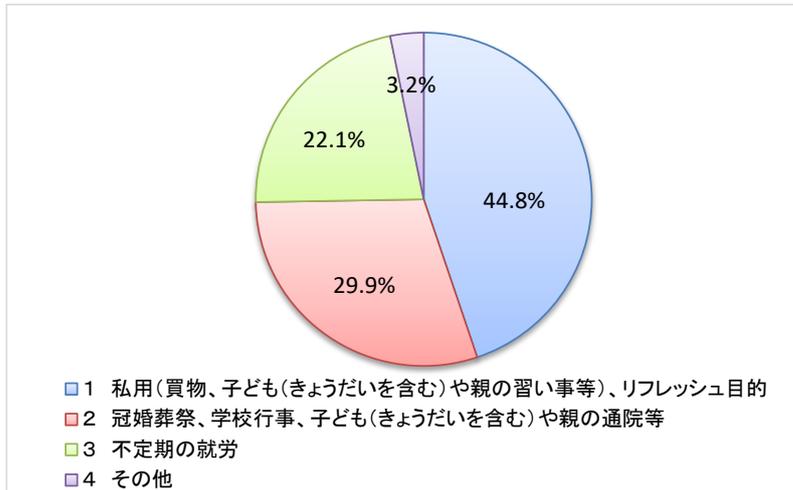
【不定期での教育・保育事業等の利用意向】



「利用したい」と回答した方の利用の目的では「私用、リフレッシュ目的」が 44.8%で最も多く、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院等」29.9%、「不定期の就労」が 22.1%で続いています。

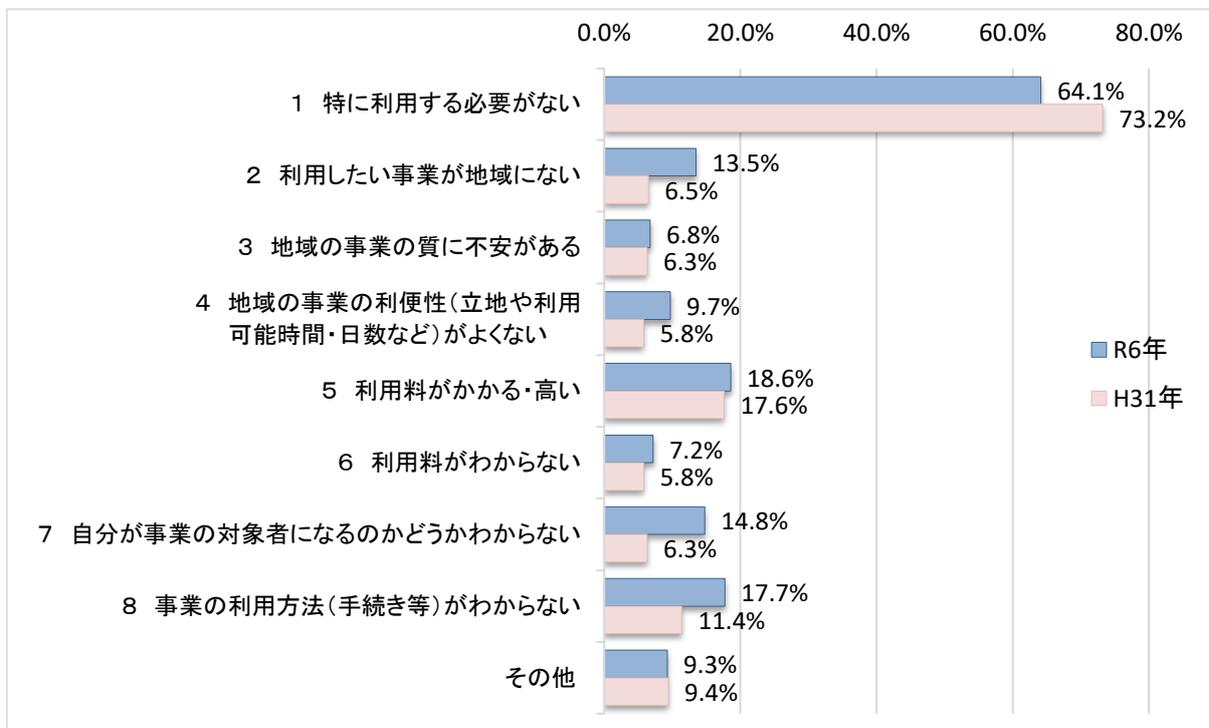
その際、預けるのに望ましいと思う事業形態は「大規模施設で子どもを保育する事業」が 70.1%で最も多く、「小規模施設で子どもを保育する事業」が 56.2%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」が 35.8%で続いています。

【利用したいと回答した方の利用目的】

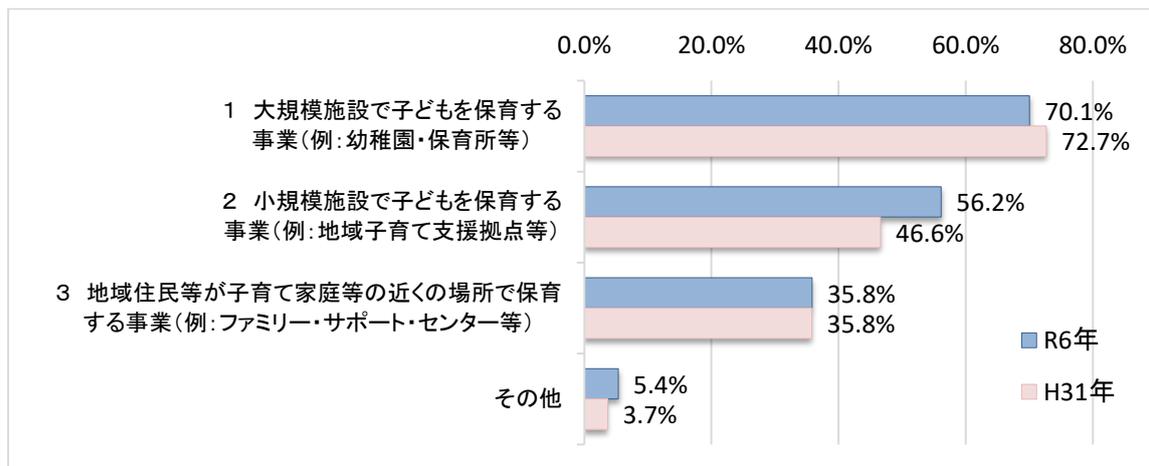


「利用していない」と回答した方の理由では「特に利用する必要が無い」が 64.1%で最も多く、「利用料がかかる・高い」18.6%、「事業の利用方法(手続き等)がわからない」が 17.7%で続いています。

【利用していないと回答した方のその理由】



【利用したいと回答した方の預けるのに望ましいと思う事業形態】

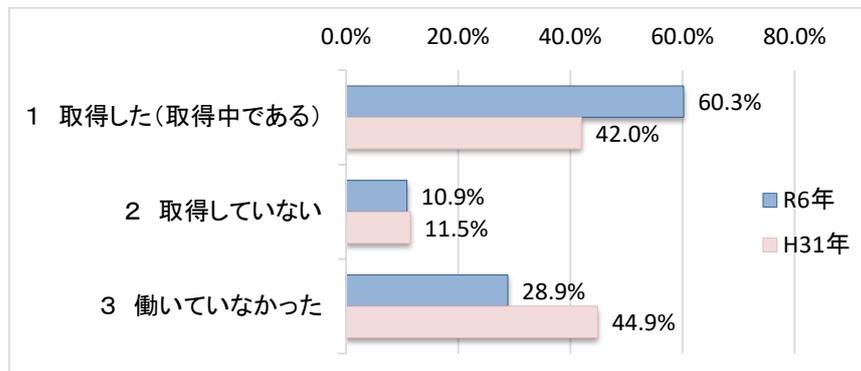


⑧ 求められるワークライフバランスー現状からみて

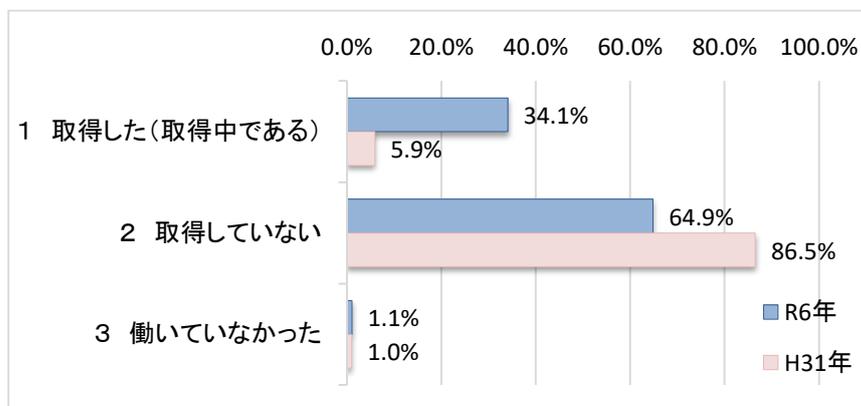
母親の育児休業取得状況をみると、「取得した(取得中である)」が 60.3%で最も多く、「働いていなかった」が 28.9%、「取得していない」が 10.9%で続きます。

これを父親でみると、「取得していない」が 64.9%で最も多く、「取得した(取得中である)」は 34.1%となっています。

母親

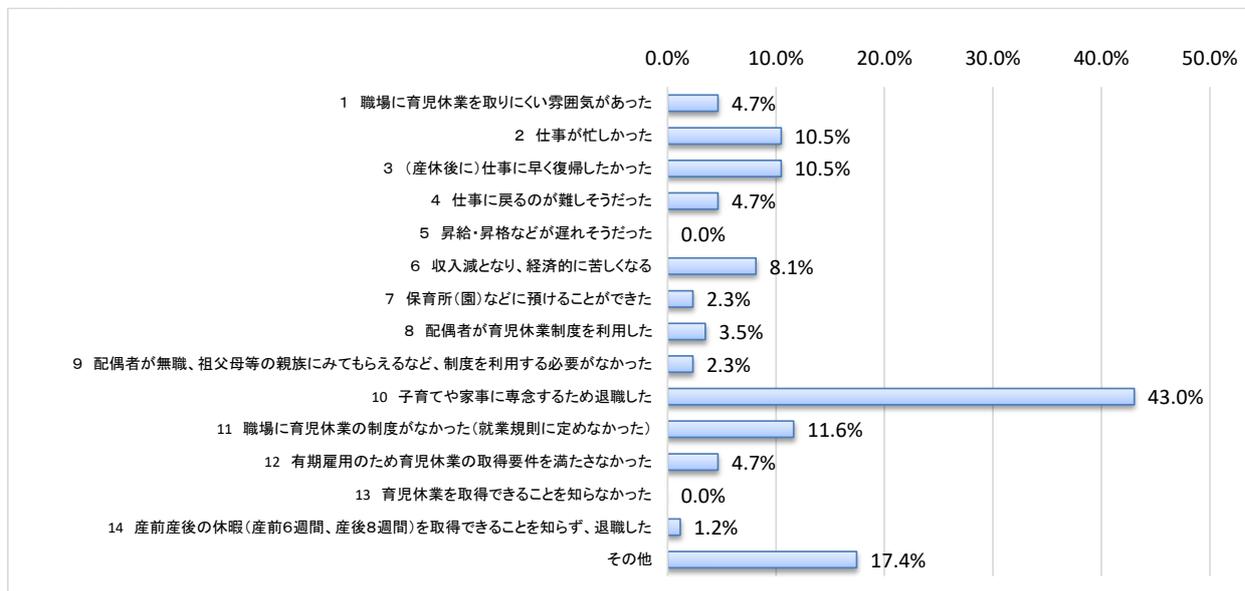


父親

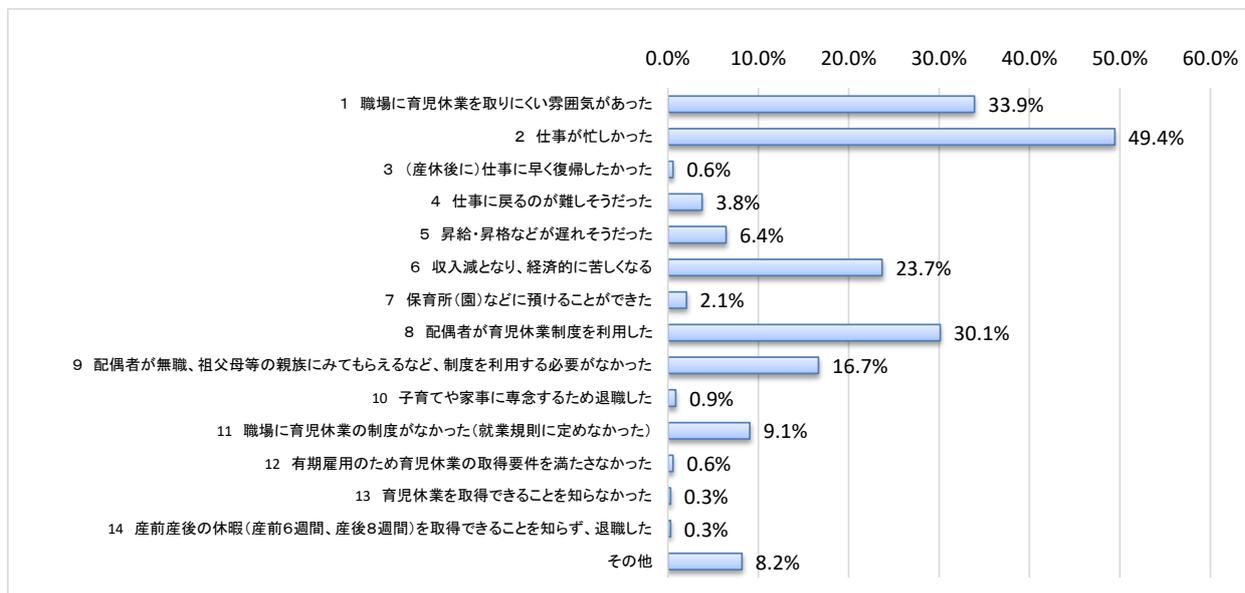


育児休業を取得していない理由は、母親では「子育てや家事に専念するため退職した」が 43.0%で最も多く、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めなかった)」が続きます。父親では「仕事が忙しかった」が 49.4%で最も多く、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が続きます。

母親



父親

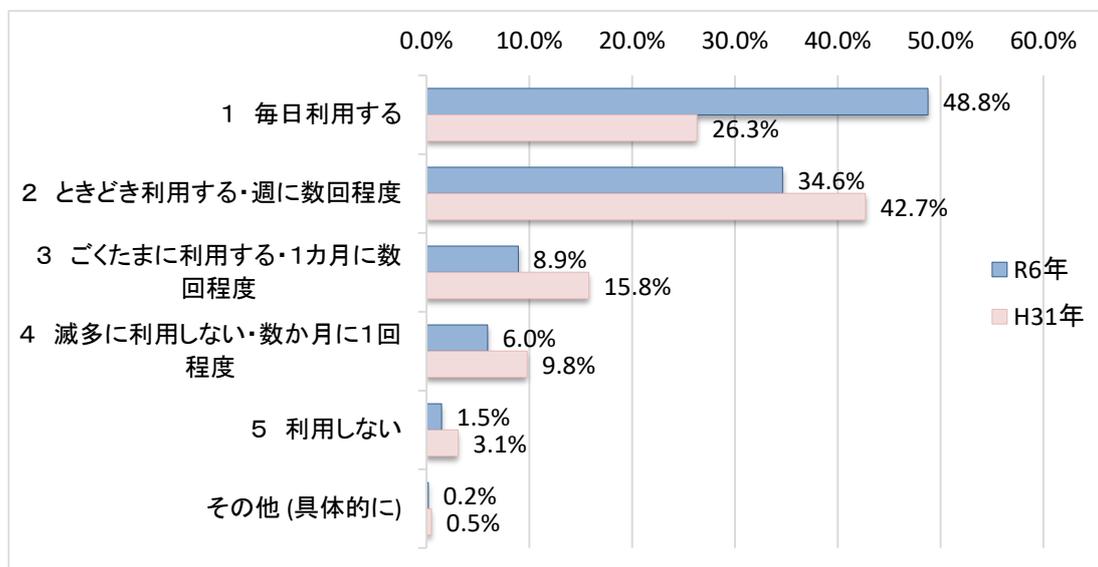


(3)子育て支援施策環境の整備

① 子育てに関するインターネット利用頻度

子育てに関するインターネット利用頻度をみると、「毎日利用する」が 48.8%で最も多く、「ときどき利用する・週に数回程度」と続きます。「ごくたまに利用する・1カ月に数回程度」、「減多に利用しない・数カ月に1回程度」は1割に満たない状況です。

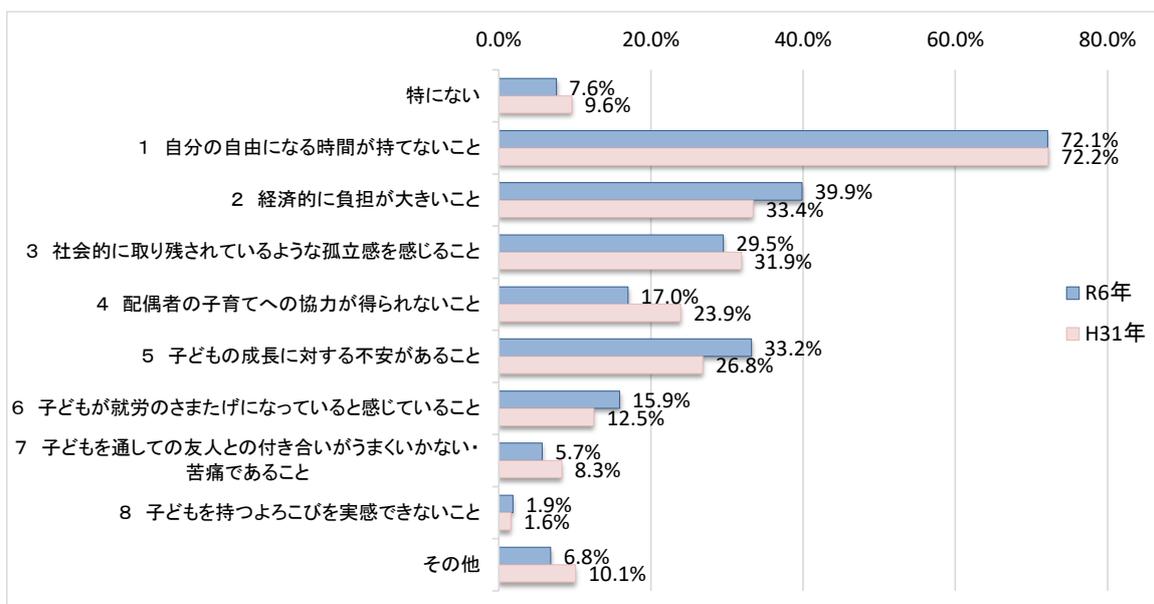
これを平成31年調査と比較すると、「毎日利用する」が増える等、利用頻度が格段に高くなっています。



② 子育てでつらかったこと

子育てでつらかったことをみると、「自分の自由になる時間が持てないこと」が 72.1%で最も多く、「経済的に負担が大きいこと」「子どもの成長に不安があること」が、それぞれ 39.9%、33.2%と3割台で続いています。

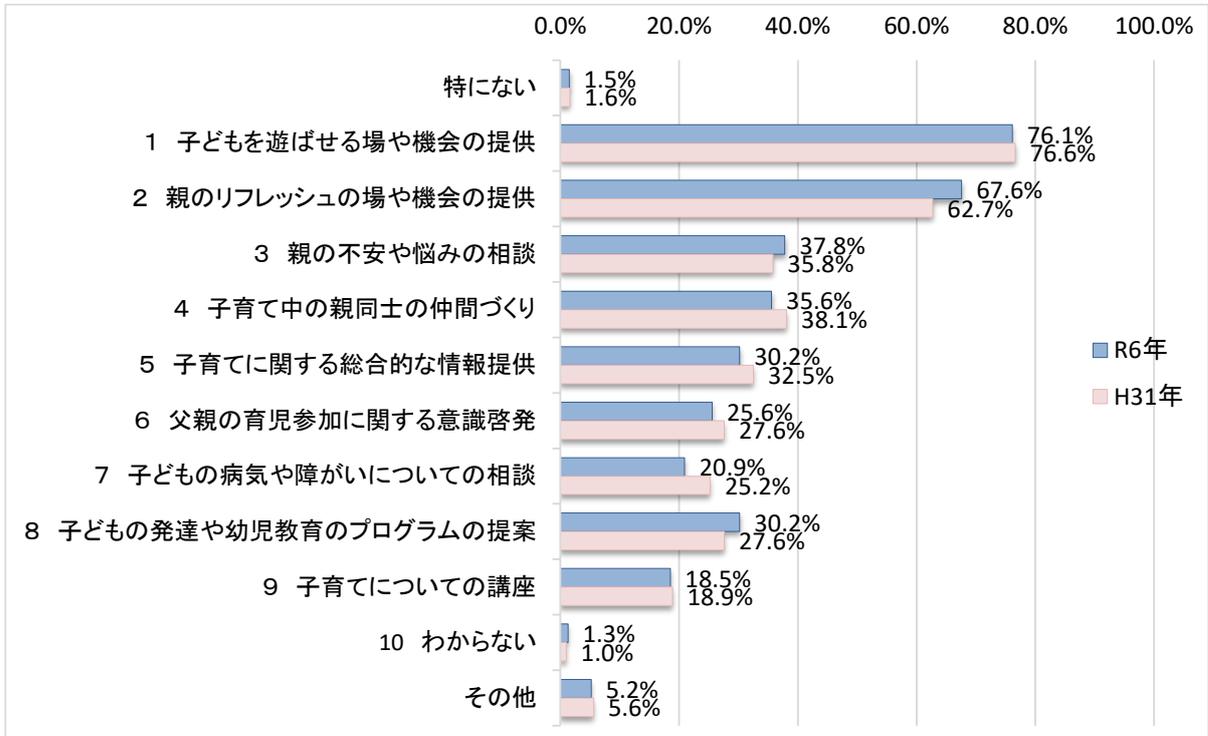
これを平成31年調査と比較すると、「子どもの成長に対する不安があること」が増えています。



③ 子育てを楽しく安心して行うために必要なサービス

子育てを楽しく安心して行うために必要なサービスをみると、「子どもを遊ばせる場や機会の提供」が76.1%で最も多く、「親のリフレッシュの場や機会の提供」が67.6%と6割を超え、そのほか「親の不安や悩みの相談」「子育て中の親同士の仲間づくり」等が、それぞれ37.8%、35.6%と3割台で続きます。

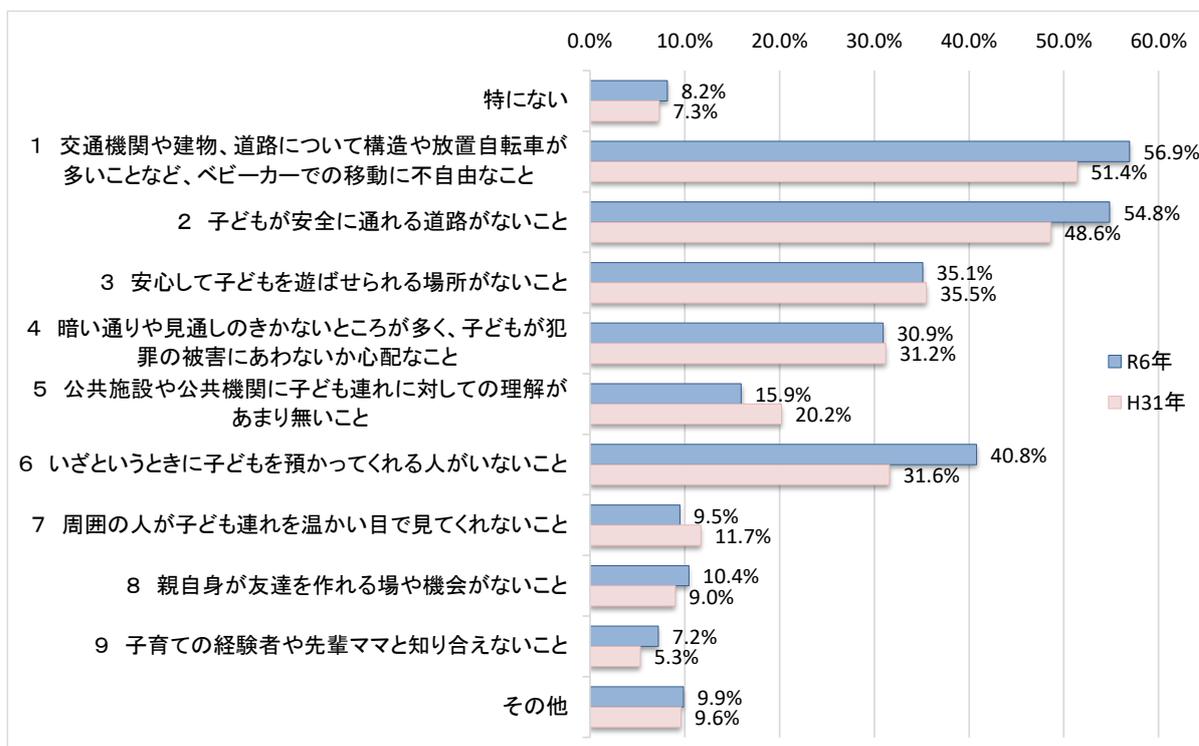
これを平成31年調査と比較すると、「親のリフレッシュの場や機会の提供」「子どもの発達や幼児教育のプログラムの提案」等が増えています。



④ 子育てで困ること・困ったこと

子育てで困ること・困ったことをみると、「交通機関や建物、道路について構造や放置自転車が多いことなど、ベビーカーでの移動に不自由なこと」が 56.9%、「子どもが安全に通れる道路がないこと」が 54.8%と5割を超えて最も多く、「いざというときに子どもを預かってくれる人がいないこと」「安心して子どもを遊ばせられる場所がないこと」等が続いています。

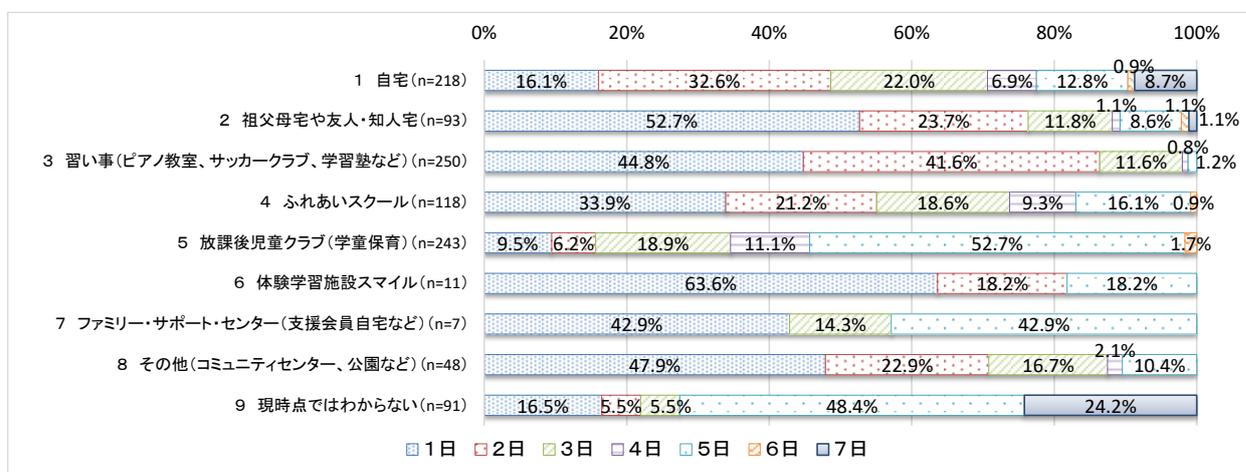
これを平成31年調査と比較すると、「公共施設や公共機関に子ども連れに対しての理解があまりないこと」「周囲の人が子ども連れを温かい目でみてくれないこと」が減ってきています。



(4)放課後児童クラブ事業

① 低学年に平日に放課後に過ごさせたい場所

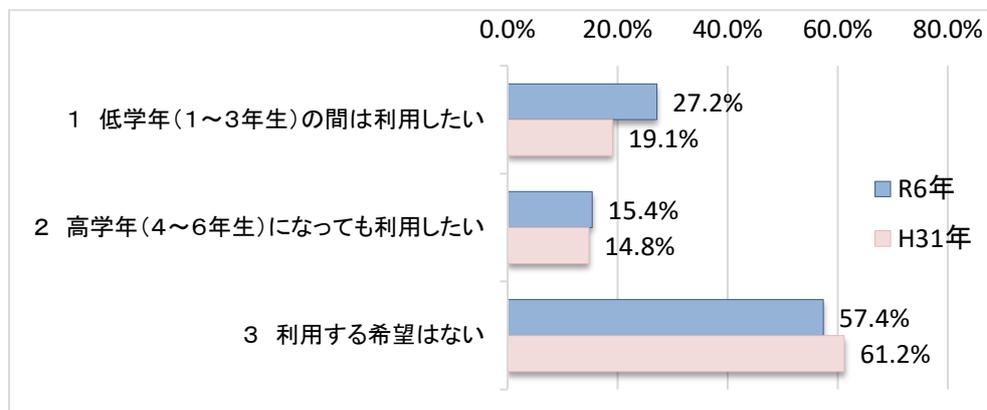
低学年の間平日に放課後に過ごさせたい場所をみると、「習い事」が 50.3%で最も多く、「自宅」「ふれあいスクール」「放課後児童クラブ」が、それぞれ 41.8%、39.9%、39.5%と4割前後で続きます。



② 土曜日の放課後児童クラブの利用希望

土曜日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する希望はない」が 57.4%で最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が 27.2%、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」が 15.4%で続きます。

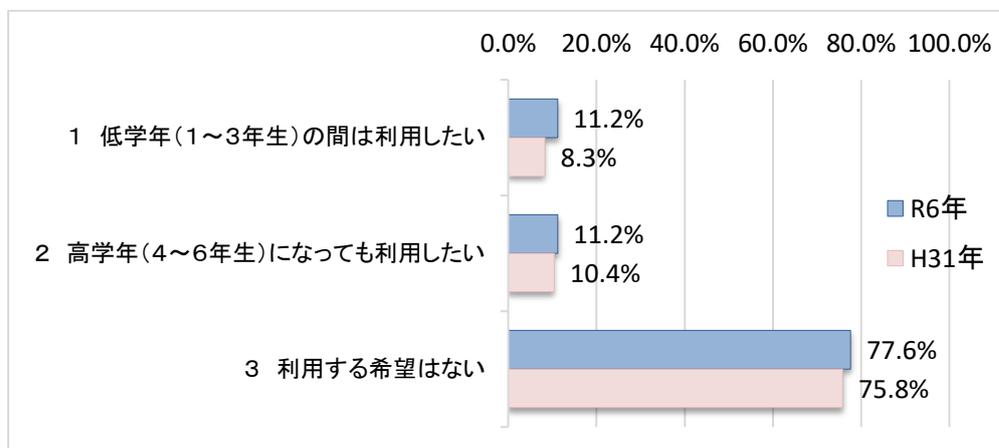
これを平成31年調査と比較すると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が増え、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」も微増しています。また、「利用する希望はない」は減っています。



③ 日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望

日曜・祝日の放課後児童クラブの利用希望をみると、「利用する希望はない」が 77.6%で最も多く、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」「高学年(4～6年生)になっても利用したい」がそれぞれ 11.2%となっています。

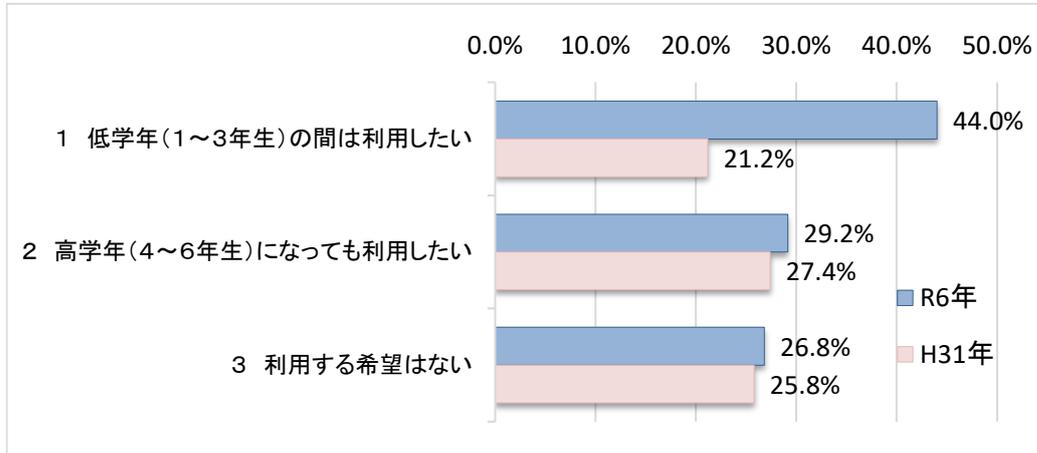
これを平成 31 年調査と比較すると、「利用する希望はない」が増えています。



④ 長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望

長期休暇期間中の放課後児童クラブの利用希望をみると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が44.0%で最も多く、「高学年(4～6年生)になっても利用したい」「利用する希望はない」が29.2%、が26.8%で続きます。

これを平成31年調査と比較すると、「低学年(1～3年生)の間は利用したい」が大幅に増えています。



2 こども・若者の意見収集

全てのこども・若者が身体的・精神的・社会的に将来にわたって幸福な生活を送ることができる「こどもまんなか社会」を目指すため、こども・若者の意見を募るため、WEB アンケートやポータルサイトを利用して意見募集、スポーツの祭典のブースでこどもから意見を聴取しました。

- (1) 市内在住の中高生にアンケートを郵送し、中高生から回答をもらいました。結果は P.81以降を確認ください。
- (2) ポータルサイトえがおや体験学習施設「スマイル」で講座参加者にアンケートを配布し、意見を募集しています。
- (3) 令和 6 年10月20日(日)に開催されたスポーツの祭典にブースを設置し、22 名のこども達から意見を聴取しました。
 - テーマ「こんな社会(逗子市)になったらいいなと思うことを教えてください。」
 - 回 答(原文どおり。漢字は補足)
 - ① 鎌倉みたいな逗子にしてね
 - ② いい逗子にしてね
 - ③ 今のままでいいです
 - ④ 好き勝手にできて、平和で暮らせてこどもが多い、ずっと死んでも天国でみんなで遊べる
 - ⑤ 大きい逗子、人がいっぱい増えて友達がいっぱい
 - ⑥ 今のまま、海も森もきれいでいてほしい
 - ⑦ 子供が思いっきり遊べるまち。公園が少ないのもっとフリーに遊べるところが欲しい
 - ⑧ 公園を増やしてほしい
 - ⑨ 公園がいっぱいあるまち
 - ⑩ 遊べるところがいっぱいほしい。
 - ⑪ ボールで遊べる公園があるといいです
 - ⑫ 細い道を広くしてほしい(消防車が通れないから)
 - ⑬ 階段じゃなくて、滑り台で降りたい
 - ⑭ お城が欲しい
 - ⑮ 友達と仲良くなって家で仲良く暮らしたい。友達とロボットを作って遊びたい
 - ⑯ 逗子にアスレチックがあったら楽しいと思います
 - ⑰ 恐竜博物館かプラネタリウムが欲しい
 - ⑱ ライオンが触れる動物園がいい、猫とか犬が街に歩いているといい
 - ⑲ ドラゴンの遊び場が欲しい
 - ⑳ 生き物だらけ
 - ㉑ お父さん、お母さんが何でも買ってくれること
 - ㉒ とくになし

■市内在住中高生向けアンケート調査概要

調査対象者	市内在住の全中高生
対象者数	2775 人（2023 年 10 月時点の全数）
調査方法	QR コード付き案内を送付 インターネットを用いたアンケートシステムによる回答
調査期間	令和 6 年 1 月 23 日（火）～令和 6 年 2 月 4 日（日）
調査項目	1. 回答者の属性 性別、年齢、所属 2. 朝ごはん 朝ごはん食べる頻度、食べない理由 3. 放課後・休日の過ごし方 放課後どこで過ごすか・誰と過ごすか、土日に誰とどこで過ごすか 4. 将来の進路 どの学校までいきたいか、なりたい職業 5. 困っていること 困っていること・心配していること、相談先 6. 逗子に住んで良かったこと、学んでよかったこと 7. 市への要望
回収状況	780 人／2775 人＝28.1%

※ 結果の見方に当たっての留意事項

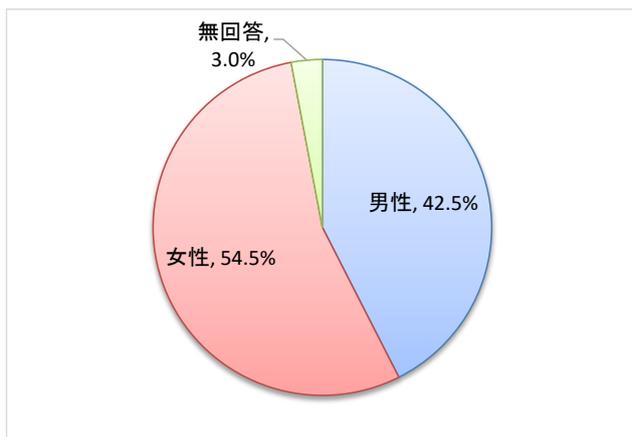
- ・百分率%の計算は、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位までを表示しています。四捨五入の影響で、%を足し合わせても 100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選択してよい設問）は、%の合計が 100%を超える場合があります。

1. 回答者の属性

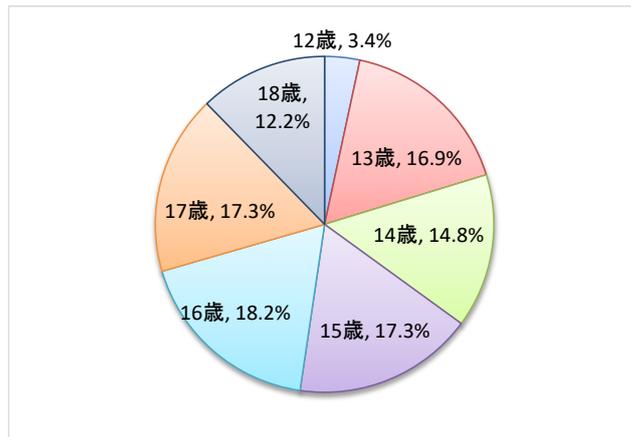
性別では、女性 54.5%に対し、男性 42.5%と女性の方がやや多くなっています。
年齢別では、16歳が18.2%と最も多いが、どの年齢層の10%台で概ね均等に回答が得られています。

また所属についても、中学生が49.9%、高校生が49.7%同程度の割合となっています。

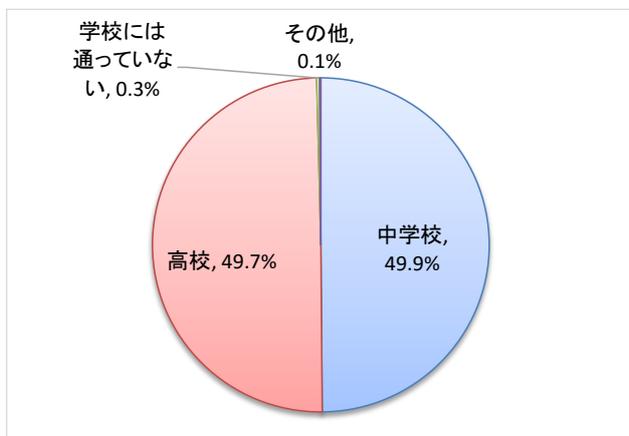
性別 (n=778)



年齢 (n=776)



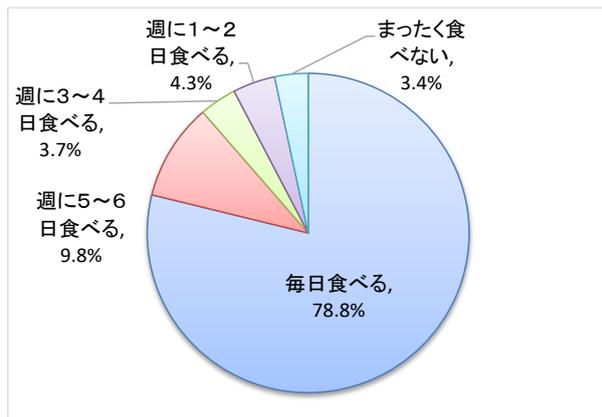
学校(中学校/高校) (n=778)



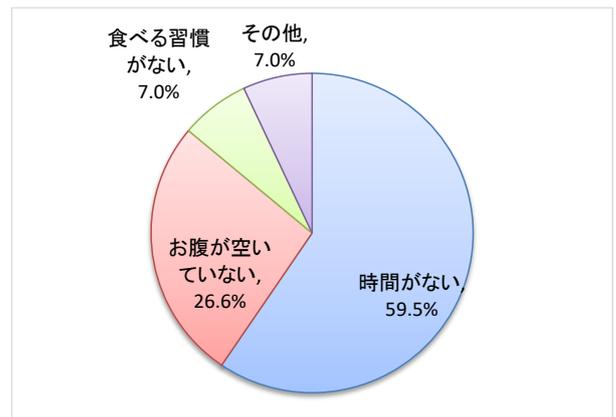
2. 朝ごはん

朝ごはんを食べる頻度は、「毎日食べている」人が78.8%となっていますが、「週に1～2日食べる」4.3%や「まったく食べない」3.4%と一定の割合を占めています。
食べない理由で最も多いのは、「時間がない」で59.5%を占めています。

朝ごはんを食べる頻度 (n=775)



朝ごはんを食べない理由 (n=158)



<その他の意見>

- ・薬を飲んでるから
- ・体質的に朝にご飯を食べるとお腹を壊してしまうため
- ・部活の朝練でお腹が痛くなってしまふ
- ・起きるのが遅い、(昼くらいまで) 寝ているから (休日)

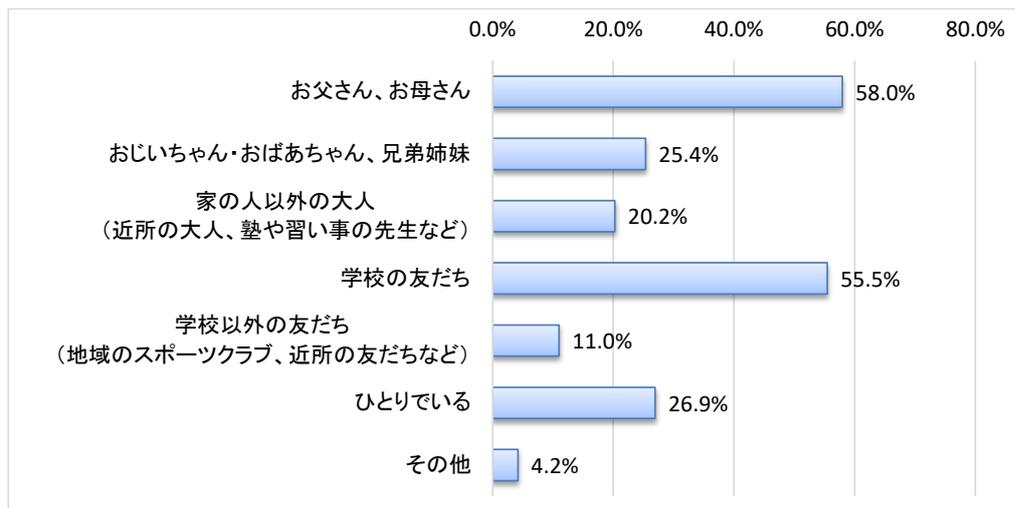
3. 放課後・休日の過ごし方

(1) 普段の放課後に誰と過ごすか

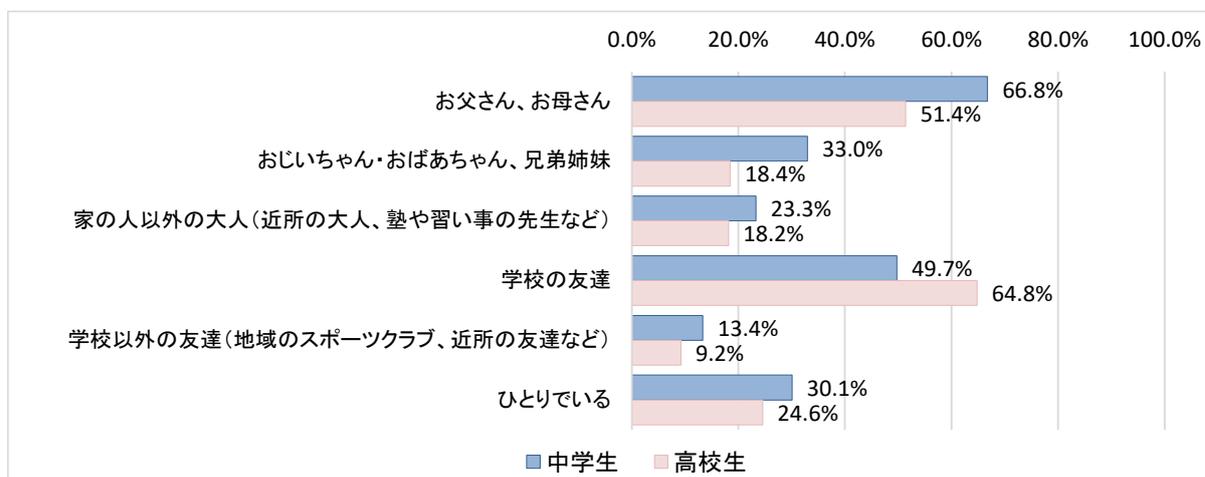
最も多いのは「お父さん、お母さん」の58.0%、次いで「学校の友達」の55.5%となっています。

中高生別で見ると、高校生になると「学校の友だち」との割合が増えている。

普段の放課後に一緒に過ごす人 (n=761) (複数回答)



< 中高生比較 >

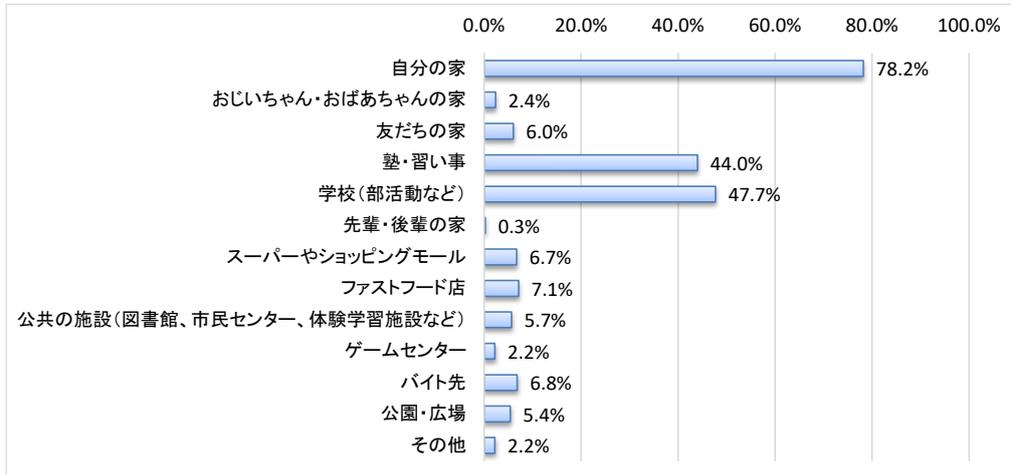


(2) 放課後にどこで過ごすか

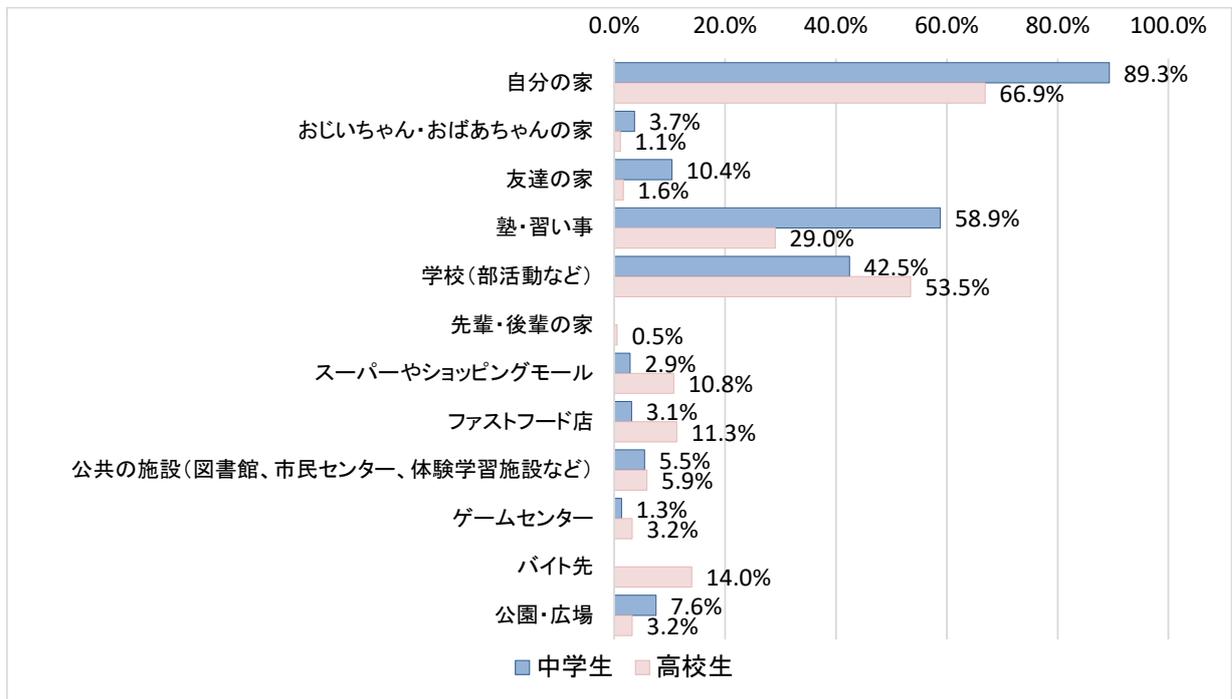
最も多いのは「自分の家」の78.2%、次いで「学校(部活動など)」47.7%、「塾・習い事」44.0%となっています。

中高生別で見ると、高校生になると「塾・習い事」の割合が減り、学校(部活動など)やバイト先の割合が増えています。

放課後に過ごす場所 (n=761) (複数回答)



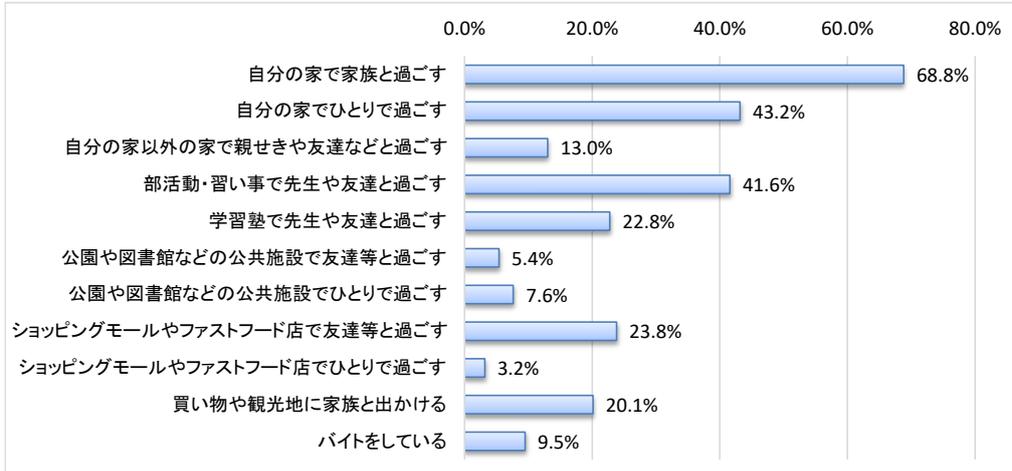
< 中高生比較 >



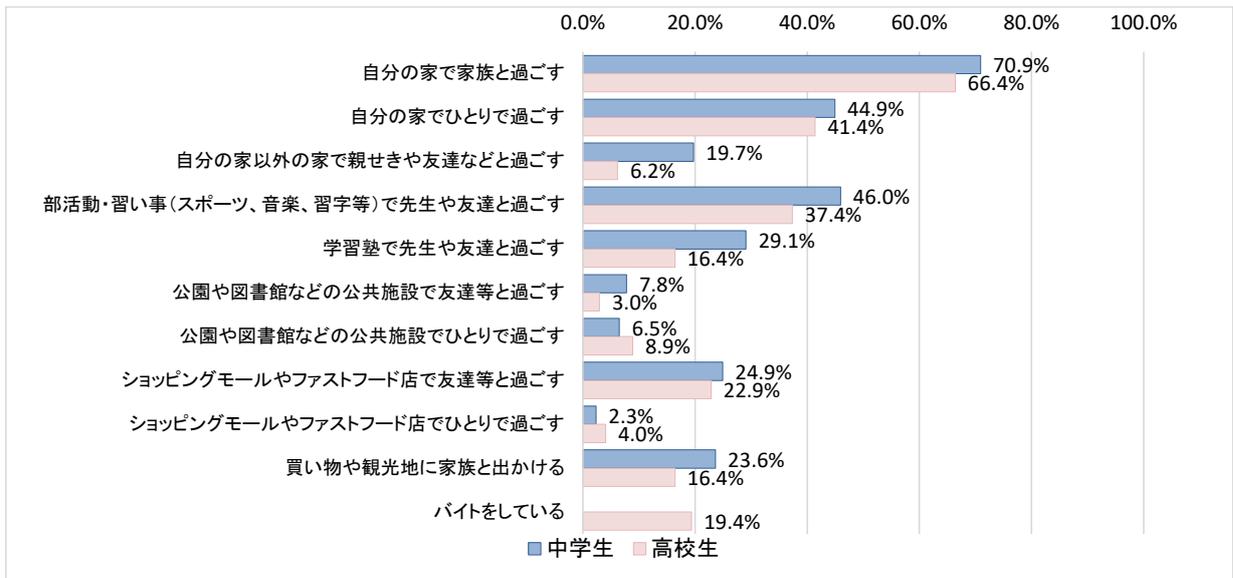
(3) 休日（学校に行かない日）に、どこで誰と過ごすか

最も多いのは「自分の家で家族と過ごす」の68.8%、次いで「自分の家でひとりで過ごす」43.2%、「部活動・習い事で先生や友達と過ごす」41.6%となっています。

休日と一緒に過ごす人と場所（n=760）（複数回答）



< 中高生比較 >

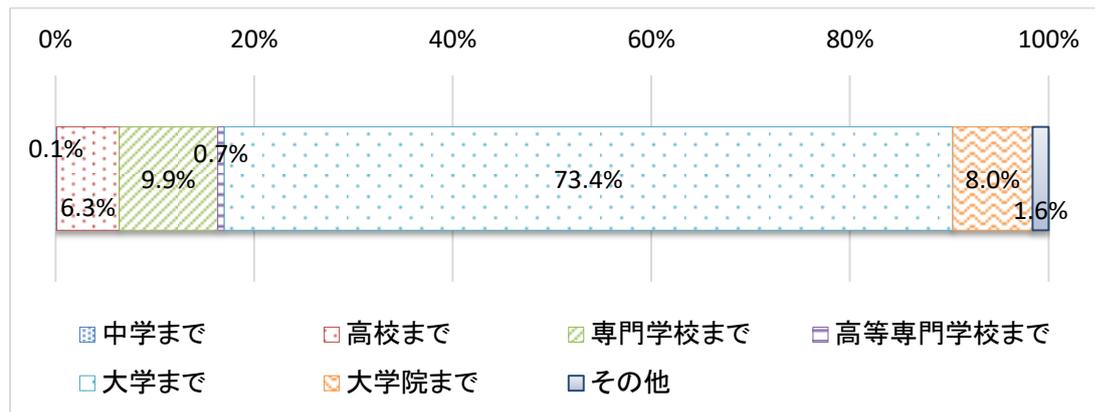


4. 将来の進路

将来、大学や大学院までの進学を希望している人が 81.4%を占めており、将来なりたい職業が「有」と回答した人が 51.3%と約半数を占めています。

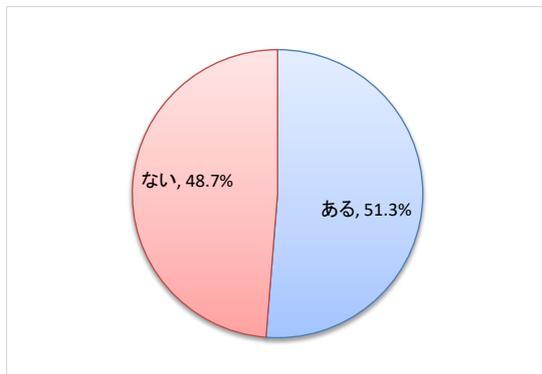
(1) 将来どの学校まで行きたいか

将来の進路 (n=747) (複数回答)



(2) 将来なりたい職業の有無

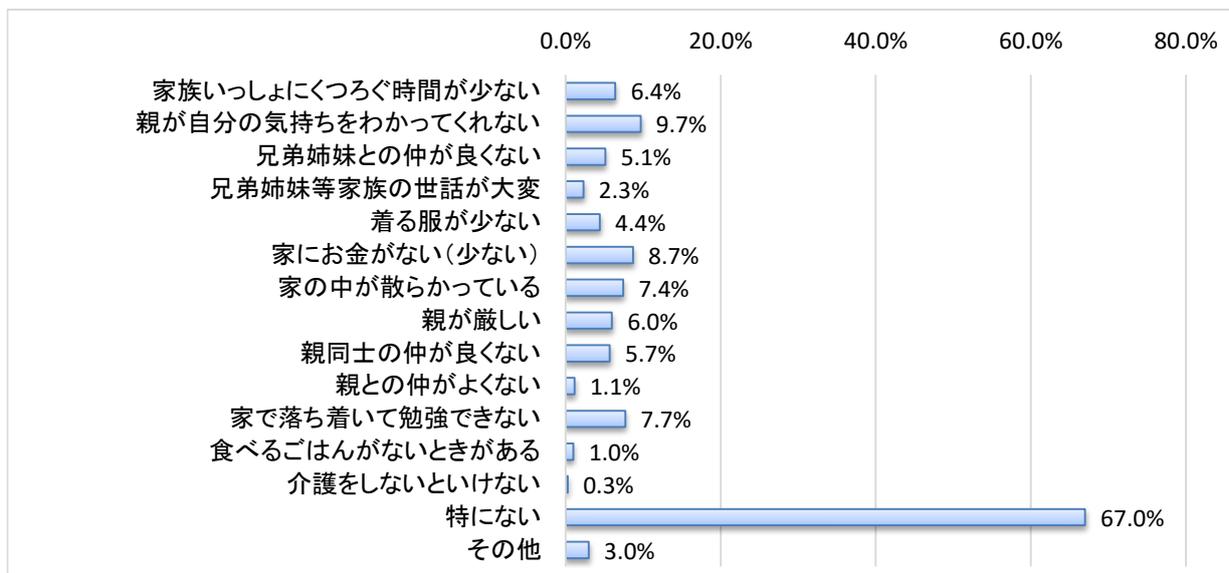
なりたい職業の有無 (n=747)



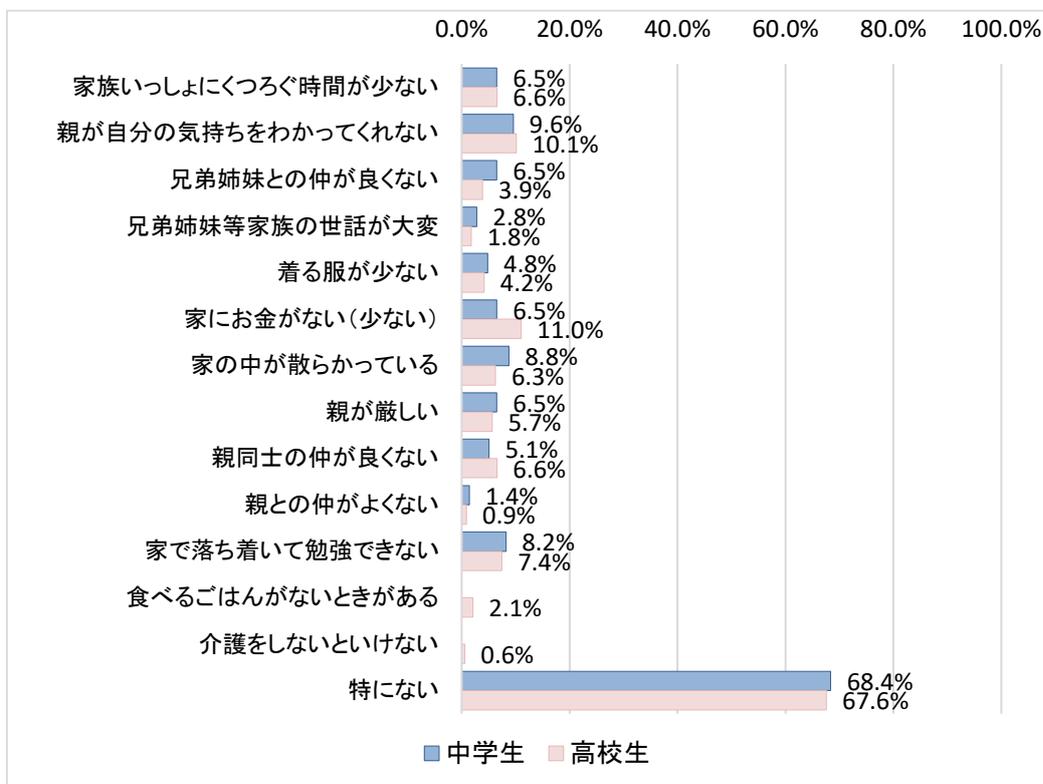
5. 困っていること

「特にない」が最も多く 67.0%となっていますが、困っているなかでは「親が自分の気持ちをわかってくれない」9.7%や「家にお金がない(少ない)」8.7%が高くなっています。
また、中高生での差はあまり見られなかった。

(1) 家族のことで困っていること (n=703) (複数回答)

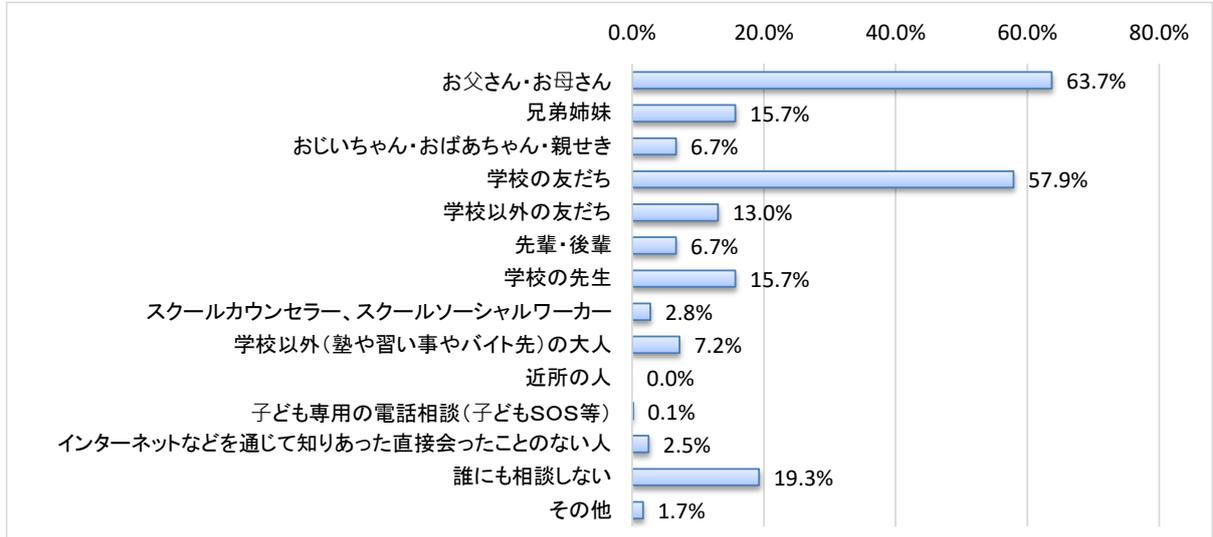


< 中高生比較 >

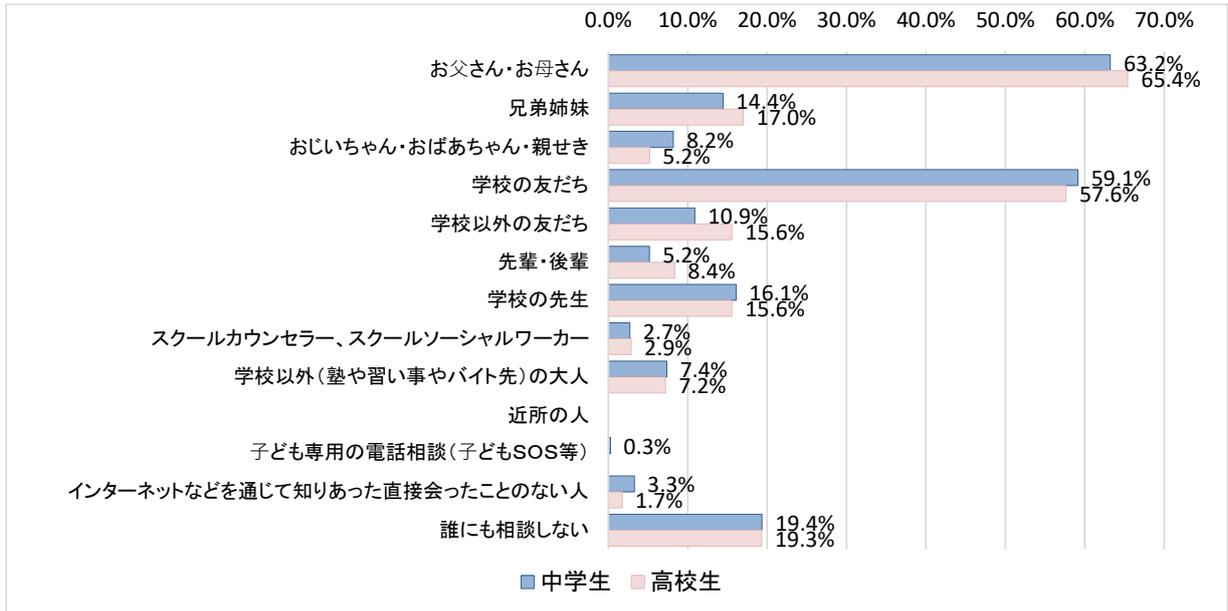


相談相手としては、「お父さん・お母さん」が63.7%と最も多く、次いで「学校の友だち」が57.9%となっています。また誰にも相談しない人が約2割を占めています。
 中高生での差はあまり見られなかった。

(2) 困っていることや悩んでいることを誰に相談するか (n=722) (複数回答)



< 中高生比較 >



6. 逗子に住んで良かったこと、学んでよかったこと

(自由記入)

内容	件数
海や山など自然が豊か (海や山がきれい、海で遊べる、自然が多い、空気がおいしい)	309
交通網が発達していて色々な所に行きやすい (2路線2駅、東京(都会)まで1本、始発で座れる)	80
地域の人の人柄がよい、優しい人が多い	62
施設が充実 (飲食店、コンビニ、図書館、公園、勉強できる所など)	35
治安が良い	34
子育ての制度が充実(18歳まで医療費無料)	18
静か、のどか	18

7. 市への要望

(自由記入)

内容	件数
まちづくり関連 (歩道の拡張、道路がでこぼこ、バス停の増、街頭の増、駅前の車の混雑、災害対策、清掃、大型商業施設)	215
生活費の補填などお金関連 (給付金の付与、税金減)	84
教育費の補助・充実 (大学学費の無料化、補助、奨学金など)	25
教育関連 (給食をおいしく、授業のやり方改善)	18
イベントの増	11
施設関連 (無料の駐輪場、バス代安く、無料の自習室、意見を言える場)	9
治安の改善(夜)	7